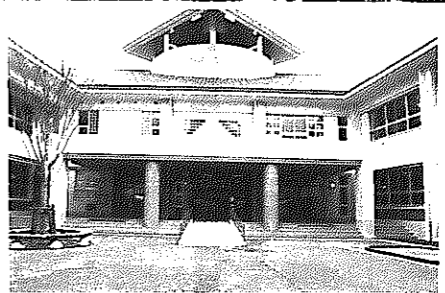


待望！ 庄瀬小学校の校舎棟が完成

4月から すてきなキャンパス気分…



施設の概要	
所在地	白根市大字菱湯新田193
面積	延べ床面積3,306㎡(校舎棟)
構造	鉄筋コンクリート2階建て
総工事費	9億6,511万円
教室	普通教室8、特別教室6
電話番号	372-2909

平成八年五月から建設が進められていた庄瀬小学校の校舎棟が完成しました。これは郵政省の簡易保険積立金還元積立金から隔資を受け、建設されたもの。校舎棟は鉄筋コンクリート二階建て、総工事費約九億六千五百万円です。食堂、コンピュータ室などを備え、緑色のとんがり帽子のような二つの屋根が遠くからも目立つ建物です。

教室をつなぐ廊下が広い空間の多目的スペースという点など、ゆとりたっぷりの造りは、平成七年度開校した白井小学校と同様ですが、この新しい庄瀬小学校で特徴的なのは、全校の児童、先生と一緒に給食を食べる食堂が、二階部分に設置されていることです。はるか遠くまで見渡せる食堂は、ちよつとした展望レストランのよう。そしてこの食堂の下の一階部分は、コンクリートの柱だけの空間となり、正面からこの食堂の下を通り抜けると、すてきな中庭が明るく広がります。

慣れ親しんだ木造の旧校舎も近く取り壊され、今年十二月の完成が予定されている新しい体育館の建設が進められます。

ごみ減量化等推進委員会が答申 市民意識が減量化最大のかき

市民、学識経験者などからなる白根市ごみ減量化等推進委員会は、昨年八月の発足以来、視察や調査などを進めてきましたが、このほど減量化についての答申書をまとめ、三月三十一日、市役所で竹内市長に提出しました。

答申書では、市のごみの量の推移や減量の目標値が上げられ、なおかつ最終的な対策として、指定ごみ袋の導入なども考慮されています。

安藤政治委員長は「最もかぎを握るのは、市民のごみを減らそうという意識です」とした上で、「ごみ減量化は人類が生きている限り

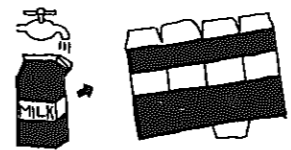


永遠のテーマ。よく検討していただきたい」と市長に答申。竹内市長は「内容を討議し、慎重かつ真剣に対策を進めたい」と述べました。

新しい収集が始まります

●牛乳パック類……古紙類の日に、
全市で収集を実施中

4月から古紙類の日に収集を始めています。必ず、中を水洗いし、はさみで切って開いて、ひもで束ねてお出しください。

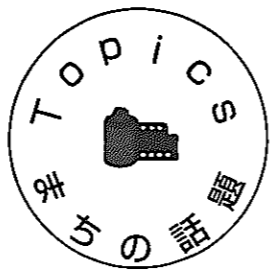


●ペットボトル……5月から国道東側で
試験的に実施

今年度は国道東側で試験的に、来年度は全市で収集します。中を水洗いし、キャップは外して(鉄・缶類に)、足で踏みつぶしてお出しください。材料表示マークが付いているものが対象です。



収集日は、各家庭にお配りした収集表をご覧ください。リサイクルにご協力をお願いします。



身近な情報をお寄せください
(白根市役所企画財政課広報広聴係
☎373-2111)

豊かな響き、見事なばちさばき

新春フルートアンサンブルコンサート



三月十六日、中央公民館主催の「新春フルートアンサンブルコンサート」がサルナート吉連堂で行われました。

第一部は、新潟フルート・アンサンブルアカデミーが「四季」など四曲を演奏。ピッコロからコントラバスフルートまで幅広い音域でフルートの魅力をたっぷりと聞かせてくれました。

第二部では、マリンバ奏者の平直美さんをゲストに迎えての競演。見事なばちさばきと熱の入った演奏で、会場から大きな拍手が送られていました。

ハワイの青空に大風舞う

ハワイ ホノルルフェスティバル



三月十四日から十六日までホノルル市(ハワイ)各地で開かれた「ホノルルフェスティバル」に白根風合戦協会が参加しました。この催しは、日本の伝統文化をハワイに紹介し、文化交流を図ることを目的としたもので、今回が三回目。日本各地から九十団体(約五千一人)が参加し、みこしや日本舞踊などさまざまな伝統芸能をホノルル市内各地で披露しました。

白根の大風は、最終日の十六日に現地の人たちも参加して揚げられました。青空に色鮮やかな絵柄が舞うと、会場に集まった人々から歓声が上がっていました。

活動の足跡、記念のポプラ

白根小学校三年生ポプラ贈呈式



白根小学校の三年生が、自分で栽培した草花を使ってしおりなどを制作し、それらを文化祭で販売。その収益金でグリーントピアルート8推進協議会からポプラの木を購入しました。

三月十三日には、同小学校でポプラに付けるプレートの贈呈式が行われました。式では、協議会の高橋幹事長が「緑を増やし、地域を伸ばそうと始めました」と活動の経緯を話し、児童の代表にプレートを手渡しました。

記念のポプラは、バックネット前に植えられています。

仕事人間にとって家庭とは

女・男生き方講座



男女とも、充実した人生を送るための生き方を考えようと社会教育課が企画した「女・男生き方講座」が三月八日から毎週土曜日、三回にわたって開かれました。

三回目は、関東学院大学教員の細谷実さんが「男性学入門」と題して講義。昔と今との男性の在り方を比較しながら「仕事人間にとって、家庭とは何か」を分析。次々と提起される男性問題について、参加者たちは活発な意見を交わしていました。